

2017.4

編集発行人・片寄浩紀

毎月1回、1日発行  
定価1部100円/1年1000円(送共)  
郵便振替 東京00100-0-38184

〒112-0004東京都文京区後楽1-5-3  
TEL. 03-3814-3591  
FAX. 03-3814-3590

Website: <http://www.rizhong.org/>  
E-mail: [info@rizhong.org](mailto:info@rizhong.org)



3月15日卒業式

## A先生の新語コーナー



## gongjiàngīngshén “工匠精神”

匠の精神。職人気質。李克強首相が、昨年3月の全人代会議でこの言葉を使ったことから急速に広まり、たちまち流行語となった。李首相は政府活動報告で「企業がカスタムメイド・フレキシブル生産を展開し、常に最善を尽くす「工匠精神」を培うことを奨励する」と述べ、製品の多様化と品質向上に取り組むよう求めたのである。現在、この精神は製造業界にとどまらず、あらゆる業種・分野で提唱されているという。

(A)

# ようこそ日中学院へ

学院長 片寄浩紀

新入生の皆さん、ようこそ日中学院へ！今年は日中国交正常化45周年に当たります。日中関係は成熟した段階に至り、社会のあらゆる分野で交流が行われております。年間に訪中する日本人は250万人、来日する中国人は600万人に達しています。今やいたるところで中国語が聞こえてきます。

「人は考える葦である」という格言がありますが、人は言葉によって物事を考えますし、お互いに理解し合うのも言葉を通じて行います。言葉は人そのものだとも言えます。皆さんがこの学院で中国語や日本語を真剣に学ぶことは自分をより豊かな人間にすることにもつながると思います。

とはいえ言葉は思考の手段、意志疎通の手段であります。日中学院は1951年倉石中国語講習会の創立に始まった学校です。日中間に国交のない時代から、国交正常化を願いつつ、中国語の教育を続けてきました。創立以来のスローガンである『学好中国话,为日中友好起桥梁作用!』(中国語を学んで日中友好の架け橋になろう!)には、日中戦争の過ちを繰り返すまい、中国語を学んで相互理解を深めようとの願いが込められています。この思いは今も多くの教職員、学生、校友の心に響き続けています。

国交正常化と中国の対外開放を経て、1986年には中国からの留学生のための日本語科を設置しました。学院内は日本人と中国人のにぎやかな交流の場にもなっています。

学習面では「中国語が聞ける、話せる」という実際に使える教育を重視しています。優秀な中国人講師を多数招くと共に、視聴覚教育設備も完備しています。昼間の本科以外に夜間講座や早朝講座など様々な要望に応じたコースを整えて、毎週80余りのクラスを開講しています。

学習以外にも中国からの代表団等を招いて学生との座談会を開き、文化祭で学生や教職員による中国語の演劇や歌舞を行うなど、常に社会との結びつきを重視した運営を行っています。また、図書室には3万点に近い書籍や視聴覚教材が備わっており、日中の近現代史についても身近に学ぶことができます。卒業後の進路についても親身になって相談に応じています。

70余名の教職員が皆さんをお待ちしています。どうぞよろしく!



## 新入生のみなさんへ 本科専任講師 高木美鳥

春になりました。新たに当校にお見えになった皆さん、また続けて学習を継続される皆さん、ようこそ！

やはり日本はこの春4月にさまざまなことがスタートするので、なんとなく心が浮き立ち、決意も改まりますね。そんなときに「中国語を学んでみよう」「続けて勉強しよう」と思い、当校へと足を運んでくださったことに感謝し、皆さんを心より歓迎いたします。

さて、こうして知り合えたのもなにかの縁ですし、ともに中国語を学ぶ仲間として、皆さんのその「やってみよう！」「続けてみよう！」の原動力、きっかけをぜひ伺ってみたいです。オリンピックへ向けて、という方も少なくないかもしれませんね。近年は台湾エンターテインメントにはまって、という方も多いです。それから周囲に中国の方が増えたのでというお声もよく耳にします。いずれにしろ、さまざまなきっかけ・動機がありますね。

この動機は、皆さんの目標にもなっているかと思えます。この目標・夢の実現のために、皆さんはこの学校の門をくぐってくださったのだと思い

ます。「目標」と文字にするとなんだか堅苦しいかもしれません。大きな「目標」、立派な「目標」は確かに素晴らしいけど、ちょっと重いです。ずっと重いものを背負っていくと歩き疲れてしまいます。高すぎる目標物は「田舎の一本杉」でなかなかたどり着けず、げっそりします。途中で小さな達成感「やったあ」があるとちょっと嬉しい。「とりあえず3ヶ月続けよう」、「近所の中国人の店員さんに声をかけよう」「中国の歌をカラオケで歌おう」…などなど、身近な目標を立てて、クリアしたらまた立てて、というような一歩々々を考えることをお勧めします。途中には給水所、休憩どころも欲しいですね。飯田橋まで足を運ばれるのですから、ぜひ、学校周辺散策など気分転換にいかがですか。小石川の庭園ののどかな風景や神楽坂のグルメ、後樂園の絶叫マシンなど、もちろん知り合った「同学」と連れ立って、歩んだり、立ち止まったり、寄り道したり、も楽しみの大きな要素になりますよね。皆さんが楽しんで続けていくためのお手伝いができるのを私たちも楽しみにしております。



## 学习汉语很愉快 別科専任講師 胡興智

桜の季節がまたやってきました。「なぜ、日本人は桜が好きなんですか」と聞くと、様々な答えが返ってきますが、「春の知らせを届けてくれて、「新しいことを始めよう」と言ってくれているような気がしますから。」という答えに思わず頷いてしまいます。

去年の四月に入学された一人の学生さんが、去年の年末に学ぶ喜びを五七五のリズムでまとめてくださいました。

### 开始很担心 学习汉语很愉快 谢谢大家了

別科基礎講座入門クラス北崎 同学

初めのころは大変不安だったものの、学び始めてみれば、その心配は徐々に消え、とても楽しくなったとのこと。乗り越えられないと思っていた山の山頂に立つことができたのも、机を並べて、喜怒哀楽を共にする仲間がいるからこそ。素晴らしい風景が眺められるようになったのは友達のおかげと、感謝する姿勢が豊かな友情をはぐくむのでしょ。

「学無止境」、学ぶに終点なし。しかし、起点はありますので、皆さんと一緒に新たなチャレンジをしていきたいと思えます。

## 新入生歓迎あいさつ 日本語科専任講師 松本朝子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは、日中学院で日本語を身につけ、日本の大学や大学院へ進もうとこれからの学校生活に期待していらっしゃることでしょう。そんなみなさんにわたくしから二つ、お話ししたいことがあります。

みなさんは大学、大学院に進学するためにこれから毎日、日本語の勉強に追われる日々を過ごすことになります。新しい環境で生活していくのは、大変なことも多いと思います。途中で「どうして日本に来たんだろう」と悩むこともあるかもしれません。しかし、そんなときは私たち教師や事務の方々、周りにいる友人たちに話してみてください。話してみると、不思議と気持ちが明るくなり、また日本での生活をつづける勇気が湧いてきます。

もうひとつお話ししたいことは、

「初心忘るべからず」

です。日本へやってきたばかりの今の気持ちを、辛く寂しい時に思い出して、もういちどがんばってみてください。皆さんが夢を叶えられるよう、

精一杯応援していきたいと考えています。

2年という月日は長いようですが、過ぎてしまうとあっという間です。夢に向かって勉強を続け、ぜひ、目標を達成してください。卒業生も日中学院で学んだことを基に、それぞれの場で活躍しています。

日中学院では、中国語を学ぶ方々と交流する機会が多く、日本の生の声が聞けます。学校ではぜひ日本語で話し、日本語力を高めてください。そして、日本の文化や習慣も同時に理解を深めていってください。今までの卒業生が苦しい環境に負けず希望をかなえられた背景には、本人の努力だけではなく、日本の方々の協力もあります。日本語と中国語、お互いに助け合いながら交流を深めることができるのは、たいへんすばらしいことです。

皆さんの留學生活が実りあるものとなり、日本と中国の友好の架け橋となるにふさわしい方とされることを祈っています。



2月18日（土）に日中学院倉石賞の授賞式が行われました。受賞者である日中文化交流市民サークル‘わんりい’の田井光枝様より寄稿頂きましたのでご紹介します。

この度、思いがけなくも2017年度の「日中学院・倉石賞」を受賞した日中文化交流市民サークル‘わんりい’です。当会の会則には、「中国の文化、芸術の鑑賞、研究を通じて、真の中国を理解し、併せて、日中両国人その他、国籍や民族を問わず、自然で自由な人間的交歓と交流を実現し、維持する事を目的とする」という目的が書かれてあります。けれども、会名に「市民サークル」とありますように、実際は、私たち・普通の市民が、中国と、その先にある国々の文化に対する興味と好奇心をエネルギーに、来日在住の人々（主として中国の）を師としてお国の文化を紹介頂くのを楽しんできたというのが本当の姿です。ですから、活動の動

機として、倉石氏の「日中友好の懸け橋になろう」という心とは異なると感じておりました。

しかし、受賞団体に選ばれたことはこれまでの活動を振り返って色々考えてみるよい機会になりました。中国の方達との温かな交流で培われたお互いへのゆるぎない信頼感こそ両国の懸け橋そのものであるとの確信を強め、一緒に活動して来た日中両国の皆様と共に今回の受賞を心から喜んでおります。

25年間、‘わんりい’代表として、また、事務局を担当してきたものとして、会の活動を振り返り、会の活動を支え、力を与えてくれた3つを選んで述べてみます。

## 1) 'わんりい'を始めたメンバー達

1992年、中国雲南の少数民族の「織と染め」の文化に触発されて中国語の勉強を思い立ち、中国語の無料体験講座4回シリーズの呼び掛けをしました。結果、20名で始めた中国語講座でした。が、1990年代の初め、中国語学習に関心を持つ4、50代の皆さん達は就職の為に中国語を学ぶではありません。それぞれが好奇心旺盛で積極的、大らかでボランティア精神溢れる人たちでした。どこか似た者同士の全員がすぐに意気投合し、教室内だけの交流ではならず、月1度の会食をするようになりました。皆、中国国家京劇院・武生役京劇俳優である私たちの中国語講師（張紹成さん）が大好きで、この会食の中で、先生の演ずる京劇を見たいと「第一回京劇鑑賞会」を企画し、その後、京劇鑑賞講座や中国民族音楽演奏会、中国京劇界の現役名優である王金璐先生を招聘するなど、次々、企画を立てました。この会食に'わんりい'の活動開始と同時に始まった「気功と太極拳の講座」、活動を通して生まれた「京劇を楽しむ講座」の世話人が加わり、会の活動を相談する定例会となりました。定例会は講座世話人ばかりでなく、会員なら誰でも参加して自由に発言できる会員同士の交流の場として定着し、今も月1回、心意気ある者達が活動について基本的な相談をしています。

## 2) 'わんりい'に関わった中国の皆さん達

活動開始当初の「わんりい中国語勉強会」講師・張紹成さんは、まだ20代後半の美青年でした。中国語の講師は初めてとのことで、質問に答えられず頬を染める姿が初々しく、中国語講座メンバーのハートをしっかりとつかんだことが、活動始動の切っ掛けになりました。先生の京劇を見たいと開催した京劇は、京劇の花形・武生役の訓練された優雅で華やかな立ち回りあり、人情の機微を付くコミカルな恋愛劇あり、まっ暗闇の中のスリリングな活劇ありでたちまち人々を魅了しました。

当会が幸運だったことは活動開始とほぼ同時に、

このような活動を通して、自分の将来を日本に託した、高学歴で、自国の文化を背負った多数の、若く、魅力的な若者たちと知り合ったことです。私達はこれらの若者たちと接することで、文革の影響下、日本にあまり伝わらなかった生の中国の文化に触れ、純粹に感動しました。来日し、自分の居場所を求めている中国の若い皆さん達も私たちの感動に答えて快く協力くださり、共に同じスタンスのボランティア精神で活動を支援してくださいました。活動外でも人間同士として交流が今も続いています。

## 3) 行政の協力

会発足の1990年代初めは、当時急速に増えた来日外国人の皆さんに対して、行政がまだはっきりした施策を打ち出せないでいた時代でした。町田市の場合、国際交流協会のような組織はなく、国際交流基金という、国際交流活動への助成金が用意されていました。活動内容や決算報告の審査は厳しいものでしたが、公からの助成は有難く、又助成を頂くことで活動の姿勢を正し、信頼頂ける会に育てられたと言えます。

会の活動が町田市に隣接する川崎市へ広がって行きました。川崎市市民文化室からは、恐らく室長さんの人柄もあって、活動企画の紹介の為に記者会見開催や、手作りのチラシを市内全域に配布する手続きをして下さるなど温かく実質的な支援を頂きました。馬頭琴演奏第一人者・チ・ボラグ氏の故郷の小学校再建を目的にした演奏会、在日中国民族音楽演奏者を総動員しての演奏会他、1000席を超える市民館大ホールでの催しは満席になる盛況ぶりでした。

推薦下さった花岡先生、倉石賞選考委員の諸先生他、'わんりい'に関わるすべての方々への感謝の気持ちでいっぱいです。今後も個々の会員の好奇心を原動力に、「草の根」的な活動ながら、活動を通して広い世界に目を向けて行けるとよいと思っています。

# 図書室 だより

## ようこそ! これが図書室です

新入生の皆様ご入学おめでとうございます。



本学院の図書室は2階の廊下の突き当たり、少し手前にあります。学院の生徒であればどなたでも利用できます。また、以前から学院に通っている

けど、図書室を利用したことがないという方、ぜひ一度足をお運びください。来ただけの価値はありますよ!

### 《開室時間》

【平日】12:00～18:45  
(別科休み期間は17:45まで)  
【土曜日】12:00～18:00  
(別科休み期間は閉室)

### 《貸出期間》と《貸出冊数》

期間・・・2週間  
冊数・・・本・雑誌5冊  
※視聴覚資料(DVD等)3点

### 《豊富な蔵書》

室内は狭いですが、電動式書棚を使っている為、中国語・日本語を含め、実に2万冊以上の資料があります。特に皆様の需要が高い、文法書を始め、各種検定試験対策の参考書等を多数配架しております。それらがあなたの学習を強力にサポートしてくれるはずです。また語学だけでなく、文学・旅行・童話・料理等幅広いジャンルの本や雑誌があり、楽しみながら、自分らしく中国語の学習ができます。

### 《多彩な視聴覚資料》

中国語を学ぶ上で、聴解力をつけることは必須です。図書室では1930年代の映画から現代まで実に多くのDVDを所蔵しています。映像を通して耳を鍛え、中国の歴史・文化・現代の諸相を垣間見ては如何でしょう?

### 手続きは簡単!



ご利用には「図書貸出証」が必要です。お持ちでない方は遠慮なくおっしゃってください。即日発行・借りられます。(但、バーコード貼付には少しお時間を頂きます。)

### 《お勧めの一冊》

#### 初めて学ばれる方に

『はじめての中国語学習辞典』相原茂編著 朝日出版社 発音レッスンCD付。辞書でありながら参考書の要素を持ち、豊富な挿絵と写真が視覚に訴えるので読んでも楽しい。(上級者でも目から鱗が落ちる情報を多数収録)

#### 中級以上の方に

『中国語類義語辞典』相原茂主編 朝日出版社 同じ“わかった”でも、中国語は「明白・了解・知道・懂」と豊富。さてどれを使うか? 試験にも出ます。主編者曰く、一中国語 疑問の半ばは 似たもの語— 中級を突破するカギは類義語の克服にあるのかもしれない。

#### 中国文化を楽しみたい方に



食無くして中国に非ず。友達になる一番の方法は一緒にご飯を食べること! 自分で出来ればもっといい。『台湾かあさんの味とレシピ』台湾大好き編集部 誠文堂新光社

皆様のご来室をこころより歓迎します。謝謝!

# 4月の日中学院

日	一	二	三	四	五	六
						<b>1</b> ●本科、日本語科 春休み(～4/9) ●別科公開講座 入門(13:00～)
<b>2</b>	<b>3</b>	<b>4</b>	<b>5</b> ●入学式	<b>6</b>	<b>7</b> ●別科公開講座 入門・基礎 (18:45～)	<b>8</b> ●別科公開講座 入門(13:00～)
<b>9</b>	<b>10</b> ●本科、日本語科、 別科授業開始	<b>11</b>	<b>12</b>	<b>13</b>	<b>14</b>	<b>15</b> ●中国語検定 受付開始
<b>16</b>	<b>17</b>	<b>18</b> ●本科学生支援 機構奨学金募集 開始	<b>19</b>	<b>20</b>	<b>21</b>	<b>22</b>
<b>23/30</b>	<b>24</b>	<b>25</b>	<b>26</b>	<b>27</b>	<b>28</b> ●本科・日本語科 都内見学	<b>29</b> ●閉門(～5/5)
●5月の日中学院 ・8日…学生支援機構奨学金受付締切 ・9日…本科・東京都市英会募集開始			・12日…本科・日本語科 健康診断 ・15日…中国語検定受付締切 ・16日…本科・日本語科合宿(～17日)		・19日…本科・東京都市英会奨学金締切 ・24日…本科 短期留学説明会	

## 【講演会報告】

1月14日(土)に日中学院の卒業生で、現在作家として活躍中の温又柔先生の講演会が行われました。「私が中国語と仲良くなるまで」と題された公演は、「日本育ちの台湾人」という先生独自の視点から語られ、多くの方にご参加いただきました。



## 【特別講演会のお知らせ】

今年度は、連続で講演会を行います。詳細は決まり次第お知らせします。

6月は、中央大学文学部教授 飯塚容先生にご講演頂きます。詳細は学院報やHPからお知らせします。

日時：6月10日(土) 13:00～  
中国現代文学の魅力—私の翻訳経験から  
講師：中央大学文学部教授 飯塚容先生

## □事務局からのお知らせ

4月10日から、別科の講座が開講します。別科講座は、定員に余裕がある場合は、期の途中からの入学も可能です。また短期の特別講座など

も開講しています。講座へのご質問等お気軽に事務局へお越しください。

事務局受付時間：月～土(日・祝…お休み)  
9:00～20:00

## □特別講座のご案内

- 音節表で学ぶ発音講座 小澤光恵  
金曜日 13:30～15:30 5/12から 全4回
  - 音読から学ぶ発音講座 小金井京子  
火曜日 18:45～20:45 5/9から 全4回
- 詳しい内容は、パンフレットをご覧ください。  
受講料：14,400円(在校生割引あり)

## □訃報

倉石中国語講習会、日中学院を通し長い間授業をご担当頂きました、長谷川良一先生が3月5日逝去されました。また、日中学院校友会の永年会員でもあり、校友会活動への多くのご協力をいただきました宮園巖様が2月に逝去されました。心よりお悔やみ申し上げます。

## 学院長退任のご挨拶

2013年10月に舞い戻って3年半、学院にお世話になった時間は40年、2017年3月末で退任いたしました。在任期間中のご厚情に感謝申し上げます。吉田隆司